

関係者インタビュー

三重県 健康福祉部 薬務感染症対策課 副参事兼副課長
(メディカルバレー推進グループ) 高村 康氏

2012年9月24日 インタビュー:中部オフィス 大石 誠



産学官民の連携で産業振興を目指す ～「みえメディカルバレー構想」の成果とこれから～

三重県は、もともと歴史的にも地理的にも医薬品の製造が盛んであったため、これをもとにさらなる産業振興を図ろうと考えていました。そこで、「みえメディカルバレー構想」を平成14年2月に策定し、同年4月に事業をスタートしました。代表的な事業は、医薬品製造の流れをくんだ医療・健康・福祉分野の産業振興で、これらは産学官民連携のもとに行われていることが大きな特徴です。

◆産学官民の連携をつくりだす、その取り組みとは

まず最初に、産学官民連携の基盤づくりから始めました。例えば、フォーラムを開催し最新の情報を提供したり、メディカル研究会を立ち上げ、大学の先生方と産業界の方々が意見交換できる環境を整えたりしてきました。そのようにして産学官の連携が強まっていく中で、当時はまだ珍しかった大学と企業の共同研究のための補助金制度を作り、さらに企業との共同研究をベースとした研究者への委託事業も行いました。これによりかなり産学連携が進み、今の産学官民連携の大きな基盤となっています。

もう一つの取り組みは、医薬品開発に必要な治験を受け入れる体制づくりです。三重大学が主導で、県が支援を行い、「みえ治験医療ネットワーク」を立ち上げ、現在123の医療機関が参画するに至りました。これは全国的にも非常に珍しい取り組みで、厚生労働省から高い評価を受けています。



◆企業を支え、ともに道筋を見つけていく

三重には多くの自動車関連企業がありますが、リーマンショック以来、自動車産業の将来性が危ぶまれ、企業は先行きに不安を抱えています。そしてその多くは、医療・健康・介護機器を作りたいと考えています。しかし、何を作ったらいいのか、どこから手を付けたらよいかわからない、というのが現状です。

そこで我々も、医療機器分野に自動車産業が参入できるような手立てを思案し、昨年からは医療現場のニーズを収集して企業に提供し始めました。その情報をもとに企業が商品を試作し、医療現場に持ち込んでニーズ提供者と試作品のブラッシュアップをし、商品の道筋をつくる、そういう形で支援していきたいと思っています。さらに、大手医療機器メーカーと連携するためには、メーカーのニーズも必要になってきますが、ここへの着手はこれからの課題です。

さらにもう一点、この分野に企業が参入する際にネックとなるのは、医療機器専門のコーディネーターがいないことです。現在この部分を県や大学が連携して、新規参入企業の支援を行っていますが、今後は専門コーディネーターの養成、確保も行っていきたいと思っています。



「みえメディカルバレー」の皆さま

◆ライフイノベーションを推進し、三重の未来を創造する

平成14年度から取り組んできた「みえメディカルバレー構想」は今年で11年目を迎え、平成24年度からは第3期実施計画を実行しています。この第3期実施計画では、今まで培ってきた産学官民の連携を活かした「みえライフイノベーション」の推進に重点を置いています。そのため、総合特区を導入し、三重を県内外の研究者や企業にとって魅力的な医薬品や医療機器等の一大開発拠点として発展させていきたいと考えています。三重県に来ることで新しい医薬品や医療機器が開発できるという環境を整え、この環境を活用していただくことで三重の産業発展、経済活性化を目指したいと思っています。

■ 本事業に関するご紹介はこちらから >> http://www.jmac.co.jp/special/health_care/

【お問合せ】株式会社日本能率協会コンサルティング

TEL.03-3434-0982 mail:healthcare_jmac@jmac.co.jp

URL:<http://www.jmac.co.jp>